



## 2021年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年9月9日

上場会社名 アセンテック株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3565 URL <https://www.ascentech.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 直浩  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 佐藤 正信 TEL 03(5296)9331  
 四半期報告書提出予定日 2020年9月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年1月期第2四半期の業績（2020年2月1日～2020年7月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年1月期第2四半期	3,202	△3.7	332	30.2	352	33.4	244	34.0
2020年1月期第2四半期	3,325	4.2	255	4.0	264	5.6	182	5.4

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年1月期第2四半期	18.04	17.68
2020年1月期第2四半期	13.66	13.31

(注) 当社は、2020年8月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2020年1月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年1月期第2四半期	4,232	1,959	46.1
2020年1月期	2,768	1,704	61.4

(参考) 自己資本 2021年1月期第2四半期 1,953百万円 2020年1月期 1,698百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年1月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2021年1月期	—	0.00	—	—	—
2021年1月期（予想）	—	—	—	3.50	3.50

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 当社は、2020年8月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2020年1月期につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。なお、2021年1月期（予想）につきましては、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

### 3. 2021年1月期の業績予想（2020年2月1日～2021年1月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,200	4.5	568	24.5	588	30.3	407	25.0	30.07

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注2) 当社は、2020年8月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2021年1月期の業績予想における「1株当たり当期純利益」については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年1月期2Q	13,532,400株	2020年1月期	13,522,800株
② 期末自己株式数	2021年1月期2Q	372株	2020年1月期	372株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年1月期2Q	13,530,320株	2020年1月期2Q	13,339,288株

(注) 当社は、2020年8月1日付で普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を行っております。このため、2020年1月期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(重要な後発事象) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2020年2月1日~2020年7月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、東京オリンピックの延期が決定し、あらゆる経済活動が抑制され、急速に減速いたしました。現在も世界的な感染拡大の終息の見通しが明確にたたないことから、景気の先行きには不透明感があります。

一方、当社が強みをもつITインフラ分野においては、新型コロナウイルスによる政府の外出自粛要請を受け、テレワークを導入する企業が急増し、特に仮想デスクトップへの投資は、引き続き拡大基調が継続すると見込んでおります。

このような事業環境のもと、当第2四半期累計期間においては、事業戦略の一つである「自社製品の開発と展開」において、新たにクラウドサービス事業領域として、中小規模事業者向けのテレワーク環境を半日で自動構築する技術を開発し「テレワーク サブスクリプションサービス」を発表、サービス提供を開始いたしました。また、国内の大手金融機関に、自社製品「Resalio Lynx700」が採用されたことを発表いたしました。

さらに、もう一つの事業戦略である「継続収入ビジネスの拡大」においては、サブスクリプション型に完全移行した自社製品「Resalio Lynx」や自営保守サービスなどの継続収入ビジネスの増加が続いております。

当第2四半期累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大により、一部のプロジェクトで遅延等が発生するなどの影響はあるものの、仮想デスクトップ事業領域で、テレワークの導入及びサイバーセキュリティ対策需要の増加に伴い、Citrix社の仮想デスクトップソフトウェアなどの製品が堅調に推移しました。

一方、クラウドインフラ事業領域においては、ビジネスの柱として、地方自治体や国内大手クラウド事業者向けのITインフラを受注したものの、前年同期と比較し、その他の物販ビジネス等が減少し、売上高は減収となりました。

利益面においては、仮想デスクトップ事業領域においてCitrix社の仮想デスクトップソフトウェアなどの製品や自社製品である「Resalio Lynx」が急速に伸びたことに加え、自社製品である「リモートPCアレイ」が堅調に推移したことから増益となっております。また、「継続収入ビジネスの拡大」が本格的に寄与し、利益率が向上したことで、全体として増益となっております。

これらの結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高は3,202,548千円(前年同四半期比3.7%減)、営業利益は332,218千円(前年同四半期比30.2%増)、経常利益は352,244千円(前年同四半期比33.4%増)、四半期純利益は244,090千円(前年同四半期比34.0%増)となりました。

なお、当社はITインフラ事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、4,232,676千円と前事業年度末に比べて1,464,461千円の増加となりました。これは主に、商品が186,693千円減少したものの、売掛金が951,760千円及び現金及び預金が619,162千円増加したためであります。

## (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、2,273,517千円と前事業年度末に比べて1,209,648千円の増加となりました。これは主に、買掛金が1,094,931千円増加したためであります。

## (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、1,959,159千円と前事業年度末に比べて254,813千円の増加となりました。これは主に、四半期純利益244,090千円の計上により利益剰余金が増加したためであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べて619,162千円増加し、1,867,863千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、762,018千円の収入(前年同四半期は13,756千円の収入)となりました。これは主に、売上債権の増加額951,760千円、法人税等の支払額76,056千円があったものの、仕入債務の増加額1,094,931千円、たな卸資産の減少額188,257千円及び税引前四半期純利益352,292千円の計上があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、96,181千円の支出（前年同四半期は18,877千円の支出）となりました。これは、主に投資有価証券の取得による支出70,000千円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、46,761千円の支出（前年同四半期は38,587千円の支出）となりました。これは、主に配当金の支払額47,340千円があったことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年1月期の業績予想につきましては、2020年8月25日に発表いたしました2021年1月期の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年1月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,248,700	1,867,863
売掛金	631,360	1,583,121
商品	432,473	245,780
仕掛品	4,291	2,727
その他	215,778	159,973
貸倒引当金	△2,235	△5,566
流動資産合計	2,530,369	3,853,899
固定資産		
有形固定資産	62,338	58,949
無形固定資産	14,129	32,075
投資その他の資産		
その他	171,097	297,472
貸倒引当金	△9,720	△9,720
投資その他の資産合計	161,377	287,752
固定資産合計	237,845	378,777
資産合計	2,768,214	4,232,676
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	420,820	1,515,751
未払法人税等	83,719	118,289
前受金	460,318	496,104
その他	68,254	112,616
流動負債合計	1,033,113	2,242,761
固定負債		
その他	30,755	30,755
固定負債合計	30,755	30,755
負債合計	1,063,868	2,273,517
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	233,700	234,036
資本剰余金	260,700	261,036
利益剰余金	1,203,985	1,400,747
自己株式	△336	△336
株主資本合計	1,698,050	1,895,484
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	247	59,149
繰延ヘッジ損益	—	△1,474
評価・換算差額等合計	247	57,675
新株予約権	6,048	6,000
純資産合計	1,704,346	1,959,159
負債純資産合計	2,768,214	4,232,676

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
売上高	3,325,429	3,202,548
売上原価	2,808,232	2,607,806
売上総利益	517,196	594,741
販売費及び一般管理費	262,031	262,523
営業利益	255,164	332,218
営業外収益		
受取利息	18	4
為替差益	5,047	13,695
助成金収入	4,628	6,418
その他	167	1
営業外収益合計	9,862	20,118
営業外費用		
支払利息	64	—
株式交付費	631	92
その他	292	0
営業外費用合計	988	92
経常利益	264,038	352,244
特別利益		
新株予約権戻入益	192	48
特別利益合計	192	48
税引前四半期純利益	264,230	352,292
法人税、住民税及び事業税	80,039	109,404
法人税等調整額	1,977	△1,202
法人税等合計	82,016	108,202
四半期純利益	182,214	244,090

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	264,230	352,292
減価償却費	12,110	12,369
のれん償却額	1,129	—
株式交付費	631	92
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	827	3,331
受取利息及び受取配当金	△18	△4
支払利息	64	—
為替差損益 (△は益)	△6,203	24,017
新株予約権戻入益	△192	△48
売上債権の増減額 (△は増加)	△234,100	△951,760
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△114,185	188,257
前渡金の増減額 (△は増加)	△44,407	57,416
未収入金の増減額 (△は増加)	△2,318	772
仕入債務の増減額 (△は減少)	10,105	1,094,931
前受金の増減額 (△は減少)	240,032	35,785
未払消費税等の増減額 (△は減少)	5,240	19,897
その他	△27,380	719
小計	105,566	838,070
利息及び配当金の受取額	18	4
利息の支払額	△64	—
法人税等の支払額	△91,764	△76,056
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,756	762,018
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	—	△70,000
有形固定資産の取得による支出	△19,045	△5,715
有形固定資産の売却による収入	168	—
無形固定資産の取得による支出	—	△20,466
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,877	△96,181
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
ストックオプションの行使による収入	7,730	579
配当金の支払額	△46,317	△47,340
財務活動によるキャッシュ・フロー	△38,587	△46,761
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,121	86
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△44,830	619,162
現金及び現金同等物の期首残高	842,394	1,248,700
現金及び現金同等物の四半期末残高	797,563	1,867,863



## (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式分割)

当社は、2020年7月8日開催の取締役会の決議に基づき、2020年8月1日付けで株式分割を行っております。

## 1. 株式分割の目的

株式分割を行い、投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大と当社株式の流動性の向上を図ることを目的とするものであります。

## 2. 株式分割の概要

## (1) 分割の方法

2020年7月31日(金曜日)を基準日として、同日最終の株主名簿に記録された株主の所有普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたします。

## (2) 分割により増加する株式数

①株式分割前の発行済株式総数	6,766,200株
②今回の分割により増加する株式数	6,766,200株
③株式分割後の発行済株式総数	13,532,400株
④株式分割後の発行可能株式総数	44,768,000株

(注) 上記の発行済株式総数および分割により増加する株式数は、本取締役会決議の日から株式分割の基準日までの間に、新株予約権の行使により増加する可能性があります。

## (3) 株式分割の日程

①基準日の公告日	2020年7月15日(水曜日)
②基準日	2020年7月31日(金曜日)
③効力発生日	2020年8月1日(土曜日)